



かけはし

平成28年10月 1日

ふるさと智恵文に誇りをもつ輝く智小っ子を「地域ぐるみ」で育てましょう

ふ・る・さ・と

校長 川崎 直人

育ったところ 必ずしも家庭ではない
心を育てられたところが 家庭である
学んだところ 必ずしも母校ではない
よき師よき友にめぐり会えてところが 学校である
生まれたところ 必ずしも故郷ではない
心をとどめたところが 故郷である



この文は、どんな豪華な家に住んでも、どんなに立派な校舎で学んでも、人間が最後に行き着くところは、真に心を育ててくれたところであると教えてくれています。

家庭 学校 地域の連携が叫ばれて久しくなります。三者がそれぞれの立場で子育ての責任を相応に分担し、社会全体で優しく子どもの心を育まなくては、子どもの心には家庭も学校も故郷も「ふるさと」として宿らずに大人になってしまいます。

国際化・情報化の進展の中で、子どもたちは住み慣れた街や日本を離れて生きていくこととなります。そんなときに、ふと親や兄弟のこと、先生のこと、友達のこと、故郷の山河のことなどを懐かしみ郷愁あるいは望郷の念にとらわれることがあるでしょう。それはきっとほろ苦い喜びや幸せ感なのかもしれません。

さて、先日恒例の収穫祭を行いました。友朋学級の方々に来ていただき、子どもたちがつくった「カレーライス」と「ようかん」を食べていただきました。学校で収穫したジャガイモやブドウも食卓に並び、豪華なお食事会となりました。子どもたちは友朋学級の方々に楽しんでいただこうと、つくったものの説明をしたり、積極的に話しかけたりしていました。友朋学級の方にも楽しいひとときを過ごしていただけたと思っています。

このような学校と地域との結びつきが、子どもたちの心に深く「ふるさと」を刻み込むことになるかと確信しています。未来からの留学生、地域の宝物である子どもたちに、よき「ふるさと」を提供するのは私たち大人も責務です。

保護者・地域の皆様、子どもたちのために力を合わせて頑張っていきましょう。

